

高岡市美術館創立 70 周年プレ小企画

## 美術展ポスターの足あと

展示期間: 令和 2 年 11 月 3 日(火・祝)～12月 1日(火) | エントランス付近[観覧無料]  
※好評につき令和3年1月10日(日)まで延長開催しました

本展は、7月14日(火)～19日(日)まで同会場で開催された「昭和時代の美術展ポスター」の  
展示ポスター13点に、高岡市美術館で開催された昔の美術展ポスターを8点加えて展示したものです。

高岡市美術館は1951年（昭和26）、高岡古城公園内において開館しました。1994年（平成6）には建物の老朽化により現在の地に移転新築され、昨年でリニューアル開館25周年を迎えたところです。来年2021年（令和3）は、当初の美術館開館から数えて70年目にあたります。

半世紀を超える長い年月にわたり市民の皆さまと共に歩んださまざまな出来事がありましたが、ここでは、全国でも美術館が少なかった時代に「北陸唯一の公立美術館」という美の殿堂が果たした役割のひとつとして、全国の美術展告知の発信地でもあった当館の横顔をご紹介します。

ここに展示される美術展ポスターは、旧い高岡市美術館で告知の役割を果たしたのちに、棄てられずに長年保管されていたものです。折り目なども顕著で破損もみられますが、令和の眼でみるとあらためて日本の美術館史をも感じさせる資料としての側面が浮かび上がります。高岡市美術館が歴史のある美術館だからこそ残されていた、日本の美術展覧会をめぐる時代の足跡だといえるでしょう。

学芸課では、2014年（平成26）から博物館実習の学生たちと地下倉庫のこれらのポスターの整理を始めています。人の背丈ほどの山が3つあり、手つかずの束も多く、少なくとも1950年代から90年代にかけての、恐らく2,000枚は下らないと思われる数の全国美術館の告知ポスターが保管されています。

この7月は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる企画展が相次いだこともあり、少しでも美術館をお楽しみいただけるようにと、これら全国の美術館活動の古い歴史を感じさせるポスターの一端を「昭和時代の美術展ポスター」としてエントランスに急遽展示いたしました。5日間ではありましたが大変好評をいただきましたので、その際に展示した13点に、当館の昔懐かしい展覧会のポスター8点を加えて改めてご紹介いたします。

難しいことを抜きにして、「古いって面白そう!」というくらいの気軽な気持ちで、少しでも美術館をお楽しみいただけましたら幸いです。

2020年（令和2）11月

高岡市美術館

## 展示内容

### 【高岡市美術館】

#### **古美術展覧会 高岡市美術館（昭和27） no.369**

※高岡市美術館の始まりは、昭和26年4月から5月にかけて高岡古城公園で開催された高岡産業博覧会のために建設された美術館パビリオンでした。もともと恒久的な美術館としての運営を目指した鉄筋コンクリート造りの建物であり、博覧会終了後には高岡市に移管されました。昭和26年8月に条例が制定され「高岡市美術館」が正式に発足。12月に高岡市展の開催をもってスタートを切りました。本展は昭和27年3月から4月にかけて開催され、開館後初めての特別企画展にあたります。国による博物館法の公布が昭和26年12月であることを考えると、その歴史は驚くほど深いといえます。

※「昭和時代の美術展ポスター」展でお伝えした開催年を訂正致します。

#### **横山大観展 高岡市美術館（昭和46）**

※旧美術館時代に5万人を超える入場者を数えた伝説の展覧会。創立20周年記念の節目の年でもありました。

#### **竹久夢二展 高岡市美術館（昭和45）**

※美術館に隣接して高岡市立博物館が高岡古城公園内に新築開館されたことを記念し、会場を広げて博物館と共催されました。

#### **肉筆浮世絵展 高岡市美術館（昭和42）**

#### **浮世絵名作展 高岡市美術館（昭和30）**

※浮世絵の名品は幾度となく開催されました。手作り感にあふれ、レトロな味わいを感じさせるポスターを2点紹介します。

## 古代日本の芸術と文化 高岡市美術館 (昭和 40)

※高岡ゆかりの所蔵者(当時)による国宝の銅鐸も展示されました。ポスター下部には市内で長年親しまれた百貨店「たかおか大和」の宣伝があります。建物のイラストには屋上遊園地も描かれているようです。

## 南蛮美術展 高岡市美術館 (昭和 31)

### ローマ彫刻と壺 高岡市美術館 (昭和 36)

※南蛮美術展は神戸市立博物館(前身の私立美術館は昭和 15 年開館、神戸市博として最初の開館は昭和 26 年)の協力を、ローマ彫刻と壺展は大阪市立美術館(昭和 11 年開館)の協力を得て貴重な作品を紹介することが出来ました。いずれも古くからある公立館です。

## 第 14 回 高岡市展 高岡市美術館 (昭和 36)

※高岡の「岡」という文字が顔のようにも見えますね。手書きの書体が味わい深いデザインです。

### 【開館・開園記念】

## 美の殿堂 箱根美術館 (昭和 27) no.221

※戦後早い時期に開館した私立美術館の開館告知。描かれる建造物は現在も美術館として活用されており、同美術館のホームページにて確認できます。

## 開園 80 周年記念祭 上野動物園 (昭和 37) no.133

※1882 年(明治 15)に開園した動物園の周年記念告知。右下には「PRINTED IN JAPAN」と記され、左下には作者を示すものなのか、「す」の角印と「TOSHI」の署名がみえます。鶴と亀がお祝いする愛らしい絵と、版画のようなポスターの質感が心をとらえます。

### 【文化財保護】

## 正倉院展 奈良国立博物館 (昭和 48) no.34

※正倉院展の歴代ポスターを集めた図録が奈良国立博物館から発行されています。昔のポスターは開催年の記載がないことが多く、最終的には図録の図版によって開催年を確認できました。「正倉院展」は昭和 21 年が第 1 回。2 回目からポスターが制作されました。

### 【西洋美術】

## ユーゴスラビア中世壁画展 石橋美術館 (昭和 33) no.19

## ザッキン展 大原美術館 (昭和 40) no.123

## モナ・リザ展 東京国立博物館 (昭和 49) no.96

## セザンヌ展 国立西洋美術館ほか巡回 (昭和 49) no.97

※石橋美術館(昭和 31 年開館)や大原美術館(昭和 5 年開館)など老舗美術館のポスターをはじめ、西洋美術関連の展覧会のポスターをご紹介します。このなかで特筆すべきは「モナ・リザ」展。世界でもっとも有名な絵画といわれ、フランス・パリのルーブル美術館に所蔵されているレオナルド・ダ・ヴィンチ作の油彩画《モナ・リザ》が、なんと日本で公開されたことを知っていますか?東京国立博物館のホームページ内「館の歴史:“戦後”から平成へ」に、大勢の来場者が並ぶ展示風景が写真で掲載されています。

### 【国立美術館・博物館】

## 超現実絵画の展開 国立近代美術館・東京 京橋交差点際 (昭和 35) no.121

## 中国 宋元美術 特別展 東京国立博物館 (昭和 36) no.118

## 日本国宝展 京都国立博物館 (昭和 51) no.163

※東京国立近代美術館(昭和 27 年京橋で開館。昭和 44 年に現在の竹橋に移転新築)が京橋にあった時代のシュールレアリスムの展覧会ポスターや、牧谿《観音猿鶴図》の親子猿が青一色でクローズアップされた東博の宋元美術展、京博の日本国宝展のポスターは網点も見える当時のカラー印刷に時代を感じさせられます。

### 【県内美術館】

## 美との対話'82: 収蔵作品から 富山県立近代美術館 (昭和 57) no.426

## こころの休日みつけた。 井波美術館 no.569

※このポスターの制作年が分かる方は当館にご教示をお願いします  
※富山市西中野に開館した翌年の富山県立近代美術館の収蔵品展ポスターは、シンプルな図形だけで構成されながら洗練された印象のデザインです。井波美術館は残念ながら昨年末に閉館してしまっただけに、「心の休日みつけた。」というコピーの良さが心に沁みるポスターです。

